『高原宗廟狹野大權現來由』

○寛文十二年・・・一六七二年

○醍醐天皇・・・八八五～九三〇年

○村上天皇・・・九二六～九六七年

寛文十二子年　　憲純法印

高原宗廟狹野大権現來由

（白紙）

高原宗廟狹野大権現來由

日州霧島山高千穂峯槵觸之嶽者地神第三代饒名國饒石天津彦ゝ火瓊ゝ杵尊爲下界下度天降靈峯也矣當于東麓曩昔有神仙之所居名曰狹野崇重瓊ゝ杵尊（或火ゝ出見尊 或神武天皇）奉号霧島大權現焉又（狹野大權現）人皇第六十代醍醐天皇御宇勅定三千一百餘座之大小神祇諸縣郡一座霧島神祠是也人皇六十二代村上天皇御

○四条天皇・・・八七代天皇（一二三一～一二四二）
※八六代は四条院の父後堀河
○文暦元年・・・一二三四年

○天文十二年・・・一五四三年
○貴久）は島津忠良の長子の十六代島津貴久
（薩藩旧記雑録前編二―一八四八）

宇性空上人初来于此山欲拜視權現本地之尊容精修練行于時六観世音威光赫如而現故創梵閣安置大悲像営院宇名曰霧島山華林寺錫杖院矣自尒以來當山兩艶習合之神道也人皇八十六代四條院御宇文暦元年甲午十二月廿八日神火震烈火坑飛燄石雨爨沙瘞没神祠精藍已退轉及千三百七十八年矣

十号

第一硴馭盧島　第二霧島
第三高千穂峯　第四穆嶺
第五最初嶺　第六高原嶺
第七槌觸之峯　第八大波嶺
第九生遺峯　第十毘遮盧峯
東霧島大權現高原之麓鎮座事

一　天文十二癸卯年邦君貴久主有嚴命于舜恵和尚東霧島御神躰遷幸于高原之麓而假構寶殿焉此時寶物六種持除

○元亀二年・・・一五七一年
○「伊東虎熊丸」は永正十年（一五一三）に誕生した伊東虎熊丸（日向記巻第三－二三）、元服後の六郎五郎祐清（同巻第四－五）、改名後の義祐（同一六）か
○「長倉」は伊東家家臣と思われるが詳細不明（「平等寺」も詳細不明）
○「傳教大師」は天台宗の開祖である最澄（七六六頃～八二二）
○「太守義久」は一五代島津貴久の長子で一六代島津義久（島津世家 巻之一八）
○「日州嵐田村照崎寺」は現在の宮崎県国富町嵐田にあった寺院
○慶長七年・・・一六〇二年
○文禄年中・・・一五九二～九六

之云云

寶物之事

一 御鈴二錫杖三鐃鈸四幡六流五傳教大師御筆之法華經一部六性空上人九條袈裟一衣合六種

一 元亀二年伊東虎熊丸再興之有棟札

遷宮導師　平等寺秀慶法印
名代　長倉和泉祐周
時之住　宥淳法印

神領御寄附之來由

一 天正年中寶物四種傳教大師御筆之法華經一部性空上人九條袈裟一衣宥淳和尚奉献太守義久主云云繇是日州嵐田村之照崎寺并神領高百五十斛令寄附之雖然彼地無程属于他領故且慶長七壬子年附小林遊木後門高五十貳石六斗充祭奠之供矣

文禄年中御祈禱之事

○文禄三年・・・一五九四年
○「一本杉」は加久藤郷栗下村の徳泉寺の末寺本傳庵の境内にあった
（三国名勝圖會　巻之五十二）

一文禄三甲午年爲高麗陣旅之御精祈加久藤城下堂薗一本枚下假構精舍屈宥淳和尚一人看讀法華妙典一千部焉和尚日夜精誦暫無倦時不踰三載己畢部數矣慶長元年大哉眞文讀誦功不唐梢詳瑞□于異朝焉繇是　義弘主父子輙崩數万之強敵唱凱歌御皈朝之后慶長四年己亥三月一本枚下建一基石塔令供養千部金文云云一本枚枯朽石塔今尚現在其地名日本傳庵于時御名代　新納武藏入道殿和歌

遙なる鷲乃たかねの雲ならん御法の庭乃花のけしきハ

返歌　宥淳和尚

君ならで心もつけし鷲の山の雲を御法の花の色とハ

○慶長元年・・・一五九六年

○慶長四年・・・一五九九年
○新納忠元と宥淳の和歌等については『新納忠元勲功記』に同様の記述がある
（旧記雑録拾遺　伊地知季安著作史料集二）

一慶長六辛丑年
太守忠恒主御再興有棟札
大願主　宥淳法印

御再興之次第

○慶長六年・・・一六〇一年
○「太守忠恒」は島津義弘の第三子で初代薩摩藩主の島津家久
（島津世家　巻之二〇）

○慶長十五年・・・一六一〇年
○「尺牘（せきとく・せきとく）」は手紙や書状等の事
○「相良日向」は相良日向守長泰か（薩藩旧記雑録後編三－一三九九）

○「嶋津大膳亮」は当時の高原郷地頭（高原町史料集一）、「佐多越後」は佐多越後守忠増（薩藩旧記雑録後編四－五四〇）、両名ともこの後牛根郷地頭となる（旧記雑録拾遺諸氏系譜一　諸郷地頭系図）

狭野中興之事

一　慶長十五庚戌年淳和尚捧一通之尺牘

御取次
相良日向殿　訴　忠恒主曰穂之峯之東麓狭野地者疇昔霧島大権現鎮座之舊跡而性空上人創梵閣精藍之浄砌也雖尒退轉年舊荒無日尚矣神仙之所居空作山禽野獸之棲也噫不忍看焉造新物佳代之通規矣起舊者明君之德化矣伏乞　英檀主築舊地堆社壇遷幸権現之尊躰令擬國家安全之于霊廟云　忠恒主許之司家臣島津大膳亮佐多越後兩士使高原小林野尻高岡四箇所之士八人究狭野原之封境爲永神事祭奠之領矣然而斧鎮之功暫無休不踰三載令神祠佛閣精藍復輪魚焉仍從高原之麓奉遷幸東権現之尊躰号狭野大権現即移宥淳法印司座主職感應時到哉淳和尚生賢君世膺中興運焉然則當山鎮護國家霊

廣万民快樂之勝場也

一　慶長十七壬子年狭野遷幸　忠恒主

中興有棟札

寶殿　三間四尺四面　小板葺

本地堂　三間三尺四面　茅葺

脇宮　一間三尺四面　小板葺

善神王兩社　四尺四面　小板葺

拜殿　竪四間横二間　茅葺

舞殿　竪三間横三間　茅葺

御供所　竪三間横二間　茅葺

水天宮　二間四面　茅葺

鳥居

遷宮導師　宥淳法印

御名代　島津大膳亮忠俊殿

時之住　宥淳法印

一　御寶殿者

※「ゝ」「々」は原文通り

地神第三代天饒石國饒石天津彦ゝ火瓊々杵尊

陽神木花開耶姫命

第四代彦火ゝ出見尊

陽神豊玉姫命

第五代彦波瀲武鸕鷀艸葺不合尊

陽神玉依姫命

右崇重三代六神樹六所大權現名稱又一説

第四代自彦火々出見尊至神武天皇崇

陽陽六神云云回禄退轉失舊記故不詳之

一當社本地千手観世音

一脇宮兩社

右宮白山大權現本地十一面観世音

左宮性空上人兩侍者安乙與若神童如

次本地不動明王毘沙門天

一山王廿一社大權現宮一宇

上七社

○〔金〕〔胎〕はそれぞれ〔金剛界〕〔胎蔵界〕を表す

大宮 釈迦　二宮 薬師　聖眞子 弥陀
八王子 千手　客人 十一面　十禅師 地蔵
三宮 普賢
中七社
大行事 毘沙門　牛御子 大威徳　新行事 吉祥天女
下八王子 虚空蔵　早尾 不動　王子宮 文殊

聖如 如意輪
下七社
小禅師 弥勒　大宮竈殿 金大日　二宮竈殿 胎大日
山末大明神 摩利支天　岩瀧 弁才天　釼宮 愛染
氣比 聖観音

一 善神王両社
一 水天宮
祭礼日

正月元日　同七日　二月初酉 柴一七日
七月七日　九月廿九日 柴二七日
十一月中酉 柴二七日　以上六度
一 當宮社人四十有餘人

○天文年中・・・一五三二～五五

○寛永七年・・・一六三〇年

○明暦二年・・・一六五六年

○「光久」は初代薩摩藩主島津家久の子、二代藩主島津光久

（薩藩旧記雑録後編四－一三五一）

○「島津美作」は前述の大膳亮忠俊（忠棠）の子の島津民部少輔久基

（薩藩旧記雑録後編六－一九四）

（旧記雑録拾遺　諸氏系譜一）

○慶長十七年・・・一六一二年

○寛永十四年・・・一六三七年

○寛永十五年・・・一六三八年

右者天文年中従東霧島致供奉之末孫也

一　社家役屋敷八箇所

右者御寄附之地也

一　寛永七庚午年　家久主御再営有棟札

遷宮導師　澄栄法印

御名代　島津大膳亮忠俊殿

時之住　宥淳法印

一　明暦二丙申年　太守光久主御再営

有棟札

遷宮導師　宥憲法印

御名代　島津美作久盛殿

作事奉行　兩人

伊集院正右衛門忠船

新納仁兵衛忠栄

一　本地堂一宇

右慶長十七壬子年　忠恒主雖中興之

寛永十四丁丑年二月廿九日回禄繇是

同十五戊寅年十二月　光久主寄附佛

○慶長十七年・・・一六一二年
○寛永十四年・・・一六三七年
○明暦元年・・・一六五五年
○寛文五年・・・一六六五年

閣一宇爲假殿明暦二丙申年新建梵閣矣
一山王大權現宮一宇

右慶長十七壬子年忠恒主雖中興之寛永十四丁丑年二月廿九日炎上因茲御神躰假崇置霧島宮殿内是故明暦元年之神社記不載之者也

精舍中興之事

慶長十七壬子年忠恒主雖中興之寛永十四丁丑年二月廿九日回禄繇是受檀越之芳助假雖結艸舎年久而已及毀

廢是故寛文五乙巳年光久主新營構梵閣精藍焉

護摩堂　竪三間　横二間三尺
祖師堂　竪七間　横二間三尺
客殿　竪七間三尺　横三間三尺
庫裡　竪七間　横二間三尺

○寛文五年・・・一六六五年
○「源家綱」は四代将軍徳川家綱
○「台嶺」はこの場合比叡山を指す

玄關
廊下三箇所

作事奉行兩人
村田仲左衛門經高
黒木助左衛門重旨

一當山開基性空上人（行狀如傳）
實宥和尚　宥澄和尚　心澄和尚
心誠和尚　澄存和尚　澄秀和尚
澄堅和尚　快宗和尚　快憲和尚
舜恵和尚　宥賢和尚　頼存和尚
盛瑜和尚　宥淳和尚（狹野中興）　宥憲和尚
宥岳和尚　憲純和尚

一當山稱号如「上記」スカ
一勅号霧島山金剛佛作寺慈尊院（三代不知）
一當院性空上人開基以來傳燈續譜脉譜
洒流十八世天台別院雖爲無本寺寛文
五乙巳年　源家綱公告于台嶺之御門
主合下諸山之台徒定本末之規式諸寺之

○承應二年・・・一六五三年

○「福昌寺」は現在の鹿児島市の玉龍高校敷地内あった寺院で、曹洞宗・能登国諸嶽山総持寺末寺
（薩藩政要録一）

法流、究、渕源、之奥旨、仍同年八月被属、
東叡山御門跡輪王寺、宮一品法親王尊、
敬、于直末、者也
公、方家御法事参勤、之次第
一 承應二癸巳年四月 大猷院殿 源家光公
第三回忌
千部 朝日開 七日結 靈場 福昌寺
光久主執行、之、

同四日 御法事法華三昧
導師 神德院宥憲法印
僧 五人
同日 一問一答
業義 可説不可説、傍正
副義 如我昔所願
講師 宥憲法印
問者 憲純

施物 一白銀貳枚
拜領物 一被物二

○「冨山彌一兵衛」は家格等不明だが、使者役として名が登場する（『薩藩旧記雑録追録』一四九三）

○明暦三年・・一六五七年

一白銀十枚

御使者　冨山彌一兵衛殿

衆僧各有施

一明暦三丁酉年四月　大猷院殿第七回忌

千部（十八日開　廿四日結）　霊場　福昌寺

光久主執行之

同廿一日　御法事法花三昧

導師　神徳院宥憲法印

衆僧　五人

施物　一白銀貳枚

拜領物（三種）一白銀五枚

一羽二重貳疋

一装束（袍衣　袍裳　七條　横被　修多羅　下袴）

衆僧（衆）各有施

拜領物

一（五條袈裟一　被物一）　坂本寺

一（五條袈裟一　被物一）　山内寺

一被物三　出家三人

○「袍（ほう）」は上半身、「裳」は下半身に付ける着物、「横被（おうひ）」は袈裟とは別に右肩に掛ける布、「修多羅」は袈裟に付ける組紐

○寛文三年・・・一六六三年

一寛文三癸卯年四月　大猷院殿十三回忌
千部（十七日開 廿三日結）　霊場　福昌寺
光久主執行之
同廿三日　御法事法苍三昧
導師　神徳院
衆僧（三人）　四人
施物　一白銀貳枚
衆僧各有施

○寛文七年・・・一六六七年

一寛文七丁未年四月　大猷院殿十七回忌
千部（十七日開 廿三日結）　霊場　福昌寺
光久主執行之
同廿三日　御法事法苍（三昧）三昧
導師　神徳院宥憲法印
衆僧（三人）　十人
施物　一白銀貳枚
衆僧各有施

○寛文十一年・・・一六七一年

一寛文十一辛亥年四月　大猷院殿廿一回忌
千部（十七日開 廿三日結）　霊場　福昌寺

○寛文十二年・・・一六七二年

光久主執行之

同廿日　御法事法苍三昧

導師　神徳院憲純法印

衆僧八人

施物　一青銅百疋

拜領物　一白銀五拾枚

衆僧各有施

寛文十二壬子年十月朔日　神徳院現住　権大僧都法印大和尚憲純

寺社御奉行所